

HUNTER College

．ハンター大学の概要

パンフレットの紹介、約2万名の学生が在学、内600名が障害学生。
Hunter College の創立は1870年。ろう学生17名、難聴15名である。

．挨拶

1．ディーン学長の挨拶

おはようございます。ハンター大学によろこそいらっしやいました。私の名前は、ディーンと申します。私は、スチューデント アクセス アコモデーションの学長をしています。こちらで提供しているサービスをととても誇りに思っています。一つの問題として、コストの問題があげられます。市立のシステムの中で、目指すサービスをしようとすると問題が生じます。助成金の額を上げるために、いろいろと資料を集めています。よろこそ、ハンターカレッジにいらっしやいました。いろいろな情報に関しましては、スタッフから聞くことができます。

2．エイア アラブライアー副学長

私は、シュリーさんとダナーさんが行っている仕事をとても誇らしく思っています。もし、皆さんがキャンパス内を歩かれるとお分かりと思いますが、障害学生に対するサービスが充実していて、障害学生が孤立しないで普通の学生と同じようにやっていることがとお分かりだと思います。そして、多様性を大事にして、サービスを提供しています。よろこそ、ニューヨークへいらっしやいました。みなさん、もし、ご質問がありましたら、この二人にお尋ねください。二人はこの道のエキスパートなのでお答えできると思います。

3．シュリー（ディレクター）の挨拶

よろこそ。アクセス&アコモデーションのろう、難聴学生のためのサービスお話をします。時間が限られていますが、できるだけいろいろな情報をお話しします。ハンター大学は、ラガーディア大学に次ぐろう学生の多い大学です。29名のろう、難聴の学生がいます。今日、ダナーさんがプレゼンテーションを用意しています。いろいろなサービスの内容が、そのプレゼンテーションの中に盛り込まれていると思います。ろう学生にかかわっていくということは、単に通訳のサービスをおくというだけではなく、その背景にある文化的なことも踏まえてあたるということです。大切なことは、個人のプレーではなく、グループで個々の問題にあたるということです。たとえば、ひとりで得た情報をみんなにシェアということです。それとろう学生に対する理解を深めるために教育することが大切です。ニューヨークの市立のコーディネーターたちは、そのようにして、いつも情報交流しています。

この訪問が終わったと、みなさん、なにか質問などありましたら、こちらの方に連絡を取ってください。お互い何か情報交換したり、トレーニングについてアイデアを交換したりするよい関係を作っていきたいと思います。ありがとうございました。

4．日本側の自己紹介、ネームカード（略）

Q: 学生サービス支援センターは、学生サービスセンターに組み込まれているということ
でよいのでしょうか？

A: 2万人の学部学生と、大学院生がいます。その学生すべてに対して、このフロアーが
担当していて、アクセス・アコモデーションというのは、学生サービスセンターに組み
込まれています。その障害学生に対するサービスというのは、600人から700人の
障害学生に対して行われています。そして、その600ないし700人の障害学生の内
29人のろう学生に対して、サービスが行われています。

Q: 普通の学生に対しては、どのようなサービスがあるのですか？

A: 普通の学生に対するサービスは、アカデミックアドバイス、個人的なカウンセリング、
そのほか、職業関連のアドバイスや新入生、編入生に対するオリエンテーションなどが
あります。学生センターほかに、キャリアセンター、健康に関するオフィスもあります。
そのほか、成績が良くない学生、進級や卒業が危ぶまれる学生に対して支援をするコー
ディネーターがいます。

Q: 過去10年ぐらいの聴覚障害学生数の変化は？

A: ここ7, 8年は増えています。午後にくわしくお話します。1997年には7名の聴
覚障害学生がいました。私は、そのときパートタイマーでした。今日で2倍以上になっ
ています。ろう学生に対するサービスはラガーディア大学に次いで規模でサービスを
行っています。

Q: もし、私がこの学生になったとすると、一つのセメスターでどのくらい費用がかか
るのか？

A: 留学生は74ドル(?)

Q: 逆にお尋ねしたいのは、皆さんの大学では、どのようなことをやっておられ、どのよ
うなことにチャレンジされているのかお聞きしたいのです。

A: 日本の大学も最近変わってきています。ノーテイクサービスなどしています。日本の
大学、主に筑波技術短期大学に関して質疑あり。(略)

・ 学内ツアー

あちこちにコンピューターサービスがある。

ここ以外にキャンパスがあって、そこでは社会福祉学部がある。

テクノロジーセンターは、1日100名ほどの学生が利用している。ワークショップ
を開くこともある。普通のコンピューターと視覚障害者用のマイクロソフトコン
ピューターがある。音声のスピードを速めているもの。

舞台のある講堂(ろう者劇団の公演もある)

トレーニングルーム

体育館

Q：予算獲得はどうしていますか？

A：ニューヨーク市の29の大学がCUNYという組織を作り、それぞれの大学から代表者が出てオフィスで協議し、州に要求します。獲得した予算の配分についても協議します。障害学生の意見も尊重します。毎年約11万ドルの予算です。CUNYスクールに属している大学は、それぞれ特徴を持っている。たとえば、ラガーディア大学ではろう学生に対するサービスに力を入れています。それぞれの大学は、その大学の特色を生かして州に訴えています。市のほうから、州のほうから、国からなど、また大学から財政支援をしてもらっています。

Q：ノートテイクのサービスは、学生がやっているのか？

A：はい、学生がやっています。その学生は、4段階評価の3.5以上の成績のものです。視覚障害やその他も含めて600人の障害学生がいます。クラスの中でボランティアを雇っているのです。大学院生。3.0以上とり続けている学生。

Q：日本では、自分の障害を表にあらわさない学生がいて、そのような学生に対して、どうして行くのかということが課題になっていますが、NETACやこちらではどうですか？

A：まず、私達がやっていることは、アウトリーチとして、周りに対して自分たちのやっている内容を呼びかけ、知らしめるように努力しています。そして、私達がどんなことをやっているのか知らせることが重要です。私達がやっている任務やオフィスがあることを手紙で知らせます。障害に対してデリケートな学生に対しては、この大学には100人も登録している障害学生がいることも知らせ、孤独感を感じなくてもよいことを知らせます。質問にあったようなことは、目に見えない障害を持っている学生に見られます。たとえば、ろうの中でも、手話のわからない学生だとか、うつ病、学習障害の場合、アメリカの場合50%ぐらいがうつになっているともいわれています。目が悪くなった場合は、お医者さんに行くようにというような感じでアドバイスをする場合もあります。学内ツアーで見られた健康フェアのような場でも、私達の活動をわかってもらえるようにしています。そのようなことを通して、そのような学生に対して対応しています。

Q：養成はどのようにしていますか？また、オンラインでトレーニングしていますか？

A：養成はしていませんが、学生に対しては、ノートテイクについてオリエンテーションをしています。オンライントレーニングは、まだできたばかりなので、まだ導入していませんが、これから導入することを考えています。実際の養成はしていませんが、オリエンテーションのときに話しています。

Q：コーディネーションをうまくやっていくための、情報源や資源について、情報を得るのには、CUNYのなかの交流の他、NETACによるトレーニングや資源を利用する場合はあるのか？

A：もちろん、私達が何かやろうとするときは、何か、どこかを頼りにします。わたしがここに雇われて、聾者のために組織を立ち上げサービスを提供しようとしたとき、全て

の情報源を活用しました。ありとあらゆる情報源を求め、会議などに参加しました。試行錯誤を繰り返して、わからないことは学生たちに直接聞いて、そして、学生からの評価も受けて、すすめました。私がここにきて最初にしたことは、サービスを必要としている学生たちに意見を聞き、サービスしていることが機能しているかどうかということを確認することでした。そのようなことをして、NETAC などから必要な情報を得ることでした。

Q：学生からの意見以外は、誰からの情報が一番役にたったのでしょうか？

A：情報源に携わっている方達は、全てがスペシャリストで、比べようがありません。それぞれに長けているところがあります。そのほか、すでに、ろう、難聴者にサービスしているところにも行きました。状況に応じて、その活用は異なりました。

Q：ろう学生のクラスにいる先生に対する働きかけはどうしていますか？NETAC のものを利用していますか？

A：ろう文化などについての知識を伝えています。NETAC のものやあらゆる情報を活用しています。

、プレゼンテーションから

1．ハンター大学の歴史

1870年創立。ニューヨークの都心にある大学の中では一番大規模な大学。18歳から86・7歳までの20000人が在学しており、100語の母語を持つ140カ国の学生が在学中。

2．4つのプログラム

芸術と科学部門がある。健康と専門職。ソーシャルワーカー。55の学部学科。15の学士と修士の学科、70以上の修士課程がある。

3．障害学生支援サービス（アクセス&アコモデーションサービス）

サービスの利用登録をするためには、証明書や診断書が必要（セラピストの証明書。薬の副作用があるか。その対処法。機関からの推薦状。など）

4．ろうおよび難聴学生のプログラム

1980年；2～5名。はじめは、ろう学生のカウンセラーというより、障害学生全体のカウンセラーとして雇われていた。当時は学内にいないので、手話通訳、ノートテイクは外部に依頼していた。

1997年；7人の聴覚障害学生がいて、手話通訳派遣を依頼していた。パートタイムのカウンセラーがいた。ADA法に基づき、ハンター大学として手話通訳の料金を支払うようになった。

1997年～現在；29名の聴覚障害学生が在籍。フルタイムのスタッフが2名。3名の手話通訳スタッフが20～25時間勤務し、16名の手話通訳が派遣されている。シュリーさんは、その管理やお金を動かす仕事をしている。1997年当時は、お金がなかった。私はレギュラーカウンセラーとして雇われたが、アクセス&アコモ

デーショで、自分の能力を提供することで働くことができた。ろう学生サービスにはニューヨーク市から出される予算があてられているが、通訳者をフルタイムで雇うようになってから、以前の 1 / 3 の予算で手話通訳派遣が可能になったため、身分保障などのベネフィットをつけても、同じ金額で 3 倍の手話通訳を付けることができるようになった。

質問に答えて ; ろう学生が増えるのは、口コミで「ハンター大学は、ろう学生がサービスを受けられる」とうわさが広がったことで増えている。コーディネーターたちがリクルートしているわけでないが、ろう学生が自然に集まってきている。大学としては学生募集に制限を設けていない。スタッフとして手話通訳者を雇ったときは、ハンター大学として一般会計から支出してくれる。

スタッフを雇うことで、むしろかかる費用の 3 分の 1 が節約できた。3 名の手話通訳者に対してはハンター大学から支払われる。

5 . Mission (派遣)

全ての教育に対して平等にアクセスできることを旨としている。

聾や難聴の学生が教育的環境にスムーズに統合できるようにする。

大学に対して、ろう文化とは何かを教育する。

6 . サービス内容

クラスゼミや講義、試験などに対してサービスを用意する。

個人的なことや就労などに関してカウンセラーサービスを行う。

この学生に対して、必要に応じて種々のサービスを行う。

ろう学生に対しては、クラス登録が優先的にできるように手配する。

手話通訳費用も安くできるようにする。

2 ヶ月前に履修登録できるようにする。12 単位がフルタイムになっている。

テストの代替え処置 (第一言語が英語でない場合) など、時間延長。

7 . NETAC の支援サービス

募集のとき、差別はしない。必ずサービスを提供しないといけない。

ハンター大学は法律に従っている。もっとよいノートテイクがあるかもしれないが、ここでは学生がノートテイクをしている。

ろうおよび難聴学生のサービス内容は NETAC からのものである。

トレーニングやワークショップについては、提供してもらっている。

最新のリサーチ情報やテクノロジーについての情報も提供してもらっている。

8 . Additional Accommodations (特別な援助)

ノートテイク

いつでも指導サービスを受けることができる。

チューターサービス

求職者紹介・推薦

9 . Types 別の対応

ろう学生

難聴学生

中途失聴

人工内耳

10 . Funding Resources (財政基盤)

国からの配分

州からの配分 ; 州の職業的リハビリテーション (VESID) から、年間 4 万ドルの分配。

ハンター大学から支出

11 . Popular Degree Programs

卒業まで (社会学、メディア関係、哲学関係、マスコミ関係、歴史学、英語)

卒業 (ソーシャルワーク、ろう教育)

卒業生 20 % が修士課程へ。 80 % が、社会的なサービス、教育分野、マスメディア関係の仕事をしている。

12 . Special Features

海外で勉強できるプログラム (手話通訳を派遣する)

ろうや難聴のクラブを 100 作り交流会やパーティを開催する。